



岐大通 2013

2013 J.League Division2

第7節 京都サンガ 戦

4/7(日) 13:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

4/7号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田 鑄造

today's guest : 京都サンガ 2012 J2 23勝 5分 1敗 勝ち点 74 第3位

1922(大正11)年に京都府師範学校(現:京都教育大学)のOBチームとして創設された『京都紫郊クラブ』を祖とし、J所属の40クラブの中で最古の歴史を持つ。1989-90シーズンに2度目のJSL昇格を果たす。1993年に「京都パープルサンガ」としてプロ化。1995年 JFL準優勝(最終戦で西濃運輸にVゴールで敗れ優勝を逃す。逆転優勝は福岡ブルックス=現:アビスパ福岡=)、翌年よりJ加盟。1年目の1996年は開幕1連敗という不名誉な記録を残す(NK「クロウズアップ現代」でも取り上げられた)。しかし、松井大輔、黒部光昭、朴智星らを擁した2002年の天皇杯で優勝、関西にJ以降で初のビッグタイトルをもたらす。2007年より「京都サンガ」に改称。2011年に4度目のJ2降格となる。2011年は天皇杯で準優勝(優勝は同じJ2のFC東京)。昨季は最終節で痛恨の引き分けにより自動昇格枠の2位から転落し、昇格プレーオフ初戦でリーグ6位の大分に敗れJ昇格ならず。リーグ最高順位は2002年のJ1・総合5位。(吉田鑄造)

3月に2013年J2シーズンが開幕してから1ヶ月。6試合を経過しているが、残念ながら今期のJ2で唯一、未だ勝利のないチームがFC岐阜。当然ながら、最下位を抜け出せないでいる。とはいえ、J2全22チーム中で6チームが1勝、1チームが2勝と、序盤から混戦模様の今シーズン、今のところは「わずかに6試合」と言っても良く、勝ち点に関してはそれほど心配する必要はないだろう。しかし、(多くの岐阜サボが心配していると思うが)チームの得点能力については、開幕前から指摘されていたことではあるが、大きな不安を抱えていると言わざるを得ない。

前節、「開幕から6試合無得点」という不名誉なJ2ワースト記録を更新してしまった攻撃陣。今期のFC岐阜の布陣では、1トップの選手の貢献が大きなポイントになると思われるが、ここまでは起用された選手がチームや戦術にフィットしていないのが、得点が奪えていない大きな原因だろう。1試合中に何度も惜しい場面は作っているものの、それが「惜しい」で終わってしまっている。シュートまでの過程もそうだが、プレーの精度(それは集中力と言っても良いだろう)が不足しているし、また、場面によっては勇気を持って挑戦する(思い切ってシュートを撃つ)ことも必要ではないだろうか。

また、前節からチームの大黒柱である#6 MF 服部選手は復帰したが、チームに負傷者が続出していること、そして、ここ3試合連続で退場者を出してしまっている(つまり次試合は出場停止になる)ことも、チーム事情を厳しくしてしまっている。だが、こういう時こそスタメン以外の選手が活躍する絶好の機会だ。いつまでもベンチ(あるいはベンチ外)に甘んずることなく、大いにアピールして出場機会を勝ち取り、競争でチームを活性化させて欲しい。今節は、#3 CB デズモンドが出場停止だ。今期の守備の要ただただに、#5 CB 関田の相方に誰がなるのか、そして守備陣が機能するのは、今節のキーポイントになるだろう。

さて、今節の対戦相手は、現在9位の京都サンガF.C.だ。2/24のP.S.M.では0-0のドローだったが、昨年は3位と実力のあるチーム、油断できるはずもない。しかし、現時点での今期の成績は2勝2分2敗であり、しっかりと準備できればつけいる隙は十分にある。今期まだ未勝利・未得点なので、選手たちは不必要に慎重になって余計にプレーが縮こまっているような気がする。こんな時こそ、僕らサポーターの出番だ。スタジアム中に響く声援で選手の背中を、そしてプレーを後押しし、彼らの活躍をうながし、そして今節こそ、このホーム長良川で今期初得点を、そして初勝利での歓喜を全員で勝ち取る。(ささたく)

2013J2

順位表 第6節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

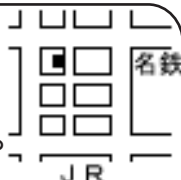
1	神戸	15p	+7	13	6	A
2	山形	12p	+5	13	8	
3	G大阪	10p	+4	12	8	
4	岡山	10p	+2	5	3	
5	徳島	10p	+1	8	7	H
6	富山	10p	+1	5	4	
7	千葉	9p	+7	11	4	
8	鳥取	9p	+1	8	7	
9	京都	8p	+2	10	8	
10	栃木	8p	+2	6	4	
11	愛媛	8p	+1	5	4	A
12	松本	8p	0	7	7	
13	長崎	8p	-1	7	8	
14	東京V	7p	+2	6	4	A
15	福岡	7p	-1	6	7	
16	水戸	6p	-2	5	7	
17	熊本	6p	-3	7	10	
18	札幌	6p	-3	4	7	
19	群馬	6p	-5	3	8	H
20	横浜FC	5p	-4	5	9	H
21	北九州	5p	-6	6	12	
22	岐阜	2p	-10	0	10	---

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:火曜(定休日が変わりました!)



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

次回 HomeGame

第9節 カターレ富山戦

4/17(水) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

【第5節】岐阜0-徳島

ミッド・ウィーク、PK 2本をしのいで勝ち点1を奪った愛媛戦からのホーム・長良川は、またまた四国のクラブが相手。前節の退場によりハンジェが出場停止。昨季の中盤の要にして、今季も中盤のかじ取り役を担うべき二人を欠いての徳島戦。とりあえず天気には恵まれたし、なんとか今季初勝利をホームで、と意気込んで臨んだつもりだったがあえなく0-1の完封負け。今季初ゴールはまたしてもお預けとなってしまった。

コーナーキックからの関田とデズのシュート。ことにデズのシュートは惜しくもポストにはじかれてしまう運のなさ。外したとわかった後のデズのリアクションが忘れられない。タラレバは禁物とわかっていても「あれが入ってたらなあ」とつつい口に出てしまうやるせなさ。

この試合で初めてのスタメン。1トップの位置についたファビオ。50分しか見る事ができなかったけど、まとまっているというかすべてが平均的な感じだった。それも悪い意味で……。出場時間を通じ、前を向いてプレーする場面はなかったんじゃないかな？オマケにハイボールにもことごとく競り負けていたような？彼はどんなプレーが得意なのか、そここのところが見えてこなかったような気がする。昨季の9番・梅田をさらにミニマム化した感じ？今後、彼自身もしくは彼以外にかなりの確変が起こらないと見通しは明るくならないような気がした。

もちろん、この日の結果は彼だけのせいではない。ただ、10人になってからの方が人もボールもよく動いていたように見えたが、それはボクの錯覚だろうか？まあ、退場者が出て人数が少なくなってから活性化するのはよくあるケース。これを1人の時からやれるようになってくれるのを願うしかない。あと、セット・プレーからなら得点できるような気がする。とにかく、セット・プレーでもオウン・ゴールでも「ないハズのPK」でもいいから、一刻も早くゴールが見たいっ！過程はどうであれ、今季は未だ感情を爆発させるシーンが訪れていない。勝てないから参戦しないなどということはあるにせよ、やっぱりゴールがないと仲間と喜びを分かち合うこともできないもんね。得点に結びつけるためには、もっともっとペナルティ・エリアの中に選手が攻め入っていく場面を増やさないと。焦って闇雲に前へパスを出す必要もないけれど、リスクを冒してでもチャレンジしないとチャンスは作れない。一つのプレーが終わっても、すぐさまパス・コースを作る動きを、味方を思いやるプレーがたくさん見たいもんです。(ぐん、)

これまで、ホーム横浜戦 ホーム群馬戦 アウェー愛媛戦と「攻撃のカタチが『まったく』ない」プロのサッカーを観続けてきた。カタチがない、つまりパスをつないで押しこむことは出来ても、その先がない。その先がないことが相手もわかっているのだから、ゴール前にキチンとブロックを作ってカタめていけばいい。

チーム戦術でゴールを奪うためのメソッドがないのだから、そうなるかあとは個の能力で打開するしかないのだから、あまり出場機会のない選手が「救世主」になってくれるのに期待するしかない。だから、開幕の横浜戦に途中から出てきてそのあまりの太め残りっぷりに「叩き3走は要る(競馬用語です。勝敗を度外視してあと3レースに出走してカラダを搾らないといけな)な」と判断したファビオのスタメンに『期待』した。若干(苦笑)。

若干……というのは、過去にファビオのいいプレーを視ていての「もう一度あのプレーをやってくれるんじゃないか」という『期待』ではなく、まったく根拠なしに「実は素晴らしいプレーが出来るのを隠しているのではないか」という、穴党のバクチ打ちなら理解していただけるような『期待』だ。結果、その『期待』は木端微塵になってしまう。

スピードがないのも、まったく空中戦になってないのも、まだ「太め残り」なんだろうということで納得はいく。しかし、ボールキープの技術もないとなると話は違ってくる。ただでさえ、「高いところでボールを奪って素早く攻める」と言いながら「その『高いところ』って、どこですか？」とばかりにズルズル下がってなんとかボールを奪うとか、対戦相手のミドルシュートの精度がなかったりとかで救われながら持ち堪えている状況なのだから、せめて味方が上がってくるまでの時間稼ぎくらいのボールキープはして欲しいのだけど、それすら出来ず。わかりやすく言うと「相手の攻撃の起点」であり続けた。前半8分に受けた警告は、主審のしぐさから「繰り返しの違反」のはずだ。開始8分だぞ？！そのあまりの機能しなさっぷりに観戦仲間と「これは前半で下げないとダメだ」と話していたのだけど、後半開始から行徳監督の採った策はシステムの4-2-2-2への変更。それはファビオが孤立しないため。「ファビオを活かせ」というメッセージ。そう来るか……と感嘆していると後半4分に明らかなアフター・チャージで2枚めの警告を受けてファビオはピッチから消えた。それはどう見ても「既に警告を受けている選手のプレー」ではなかった。先にも書いたように、前半終了時には「彼がいなくていい方が機能しそう」という感想だったのだけど、ファビオがいなくなってからの岐阜の攻撃の機能ぶりは、スラップスティック(どたばた喜劇)を観ているようだった。詰将棋の定跡手順で「味方の邪魔な駒をただ捨てることで他の駒を使いやすくする」というのがあるけど、まさにそんな感じ。ただ、これは決して誉められる状況ではない。10人になって攻撃が活性化するというのは、即ち「味方選手がいなくて使えるスペースが増えたから選手が動きやすくなった」に過ぎず、「味方の選手を動きやすくする『スペースを作る動き』」がチームとしてまったく存在しないということだからだ。

2年前の、どん底だった木村監督時代のFC岐阜の攻撃もコーディネートがまったくなく、「“ノリ”だけのサッカー」と形容する観戦仲間もいた。けれど、あの年は押谷に正吾にコーイチにと“ノリ”で攻撃になるだけのタレントがあった。今年のチームにはそれがない。デズモンドのバックヘッドがポストに嫌われる不運はあったけど、そもそも得点のカオリがうっすらと「セットプレーからのCBのヘッド」からしか漂ってこないこの現状を、チームはどのように認識しているのだろうか。

攻撃のことをずっと書いてきたけど、守備にしても問題は多い。杉山を2列めに上げたことで、たしかに右サイドは活性化した。けれど、愛媛戦の前半で相手のトミッチに見切られたように、代わりに右SBに入った田中の裏を狙われるようになった。この徳島戦の失点シーンも、田中のカバーのために杉山が最終ライン近くまで下がり、左サイドも押し込まれて「6バック」に近い状態だった。これでは2列目から飛び込んでくる相手選手は止められない。神戸戦とヴェルディ戦以外の4試合を観て、FC岐阜がいいサッカーが出来ていたのは、相手が明確に疲労していた時間帯だけ。もちろん、チームで練習もやっているのだから岐阜もだんだんと良くなっていくだろう。でも、それは対戦相手だって同じこと。出遅れている分、他チームよりもっと速いスピードでよくなっていかなければならないのだ。チームの奮起に期待したい。(吉田鑄造)

【第6節】東京V 3-0岐阜

とにかく、2月にでも戻ったような寒さの週末。とても「花曇り」とか「花冷え」などという雅な表現には程遠い東京。それでも、その寒さのおかげか、桜は散らずに残ってくれて久しぶりに東京でのお花見を堪能できたことはよかったのだが、いかんせん肝心要の試合が天気同様の内容とあっては帰途に就く心持ちも足取りも重くなるのは必然。普通なら、開始早々、たかだかキックオフ3分程度の失点くらい「ぜんぜん平気。これからこれから！」となるのだが、クリアミスに近い流れからとはいえ、実に鮮やかなボレーを決められ、しかもそこからかさにかかって攻められ続けては正直たまったもんじゃな。2点目もクロスのように見えたがチップキック気味の、高さやコースを狙ってのシュートに見えし、3点目もフェイントからの抜け出しで完全にフリーの味方に合わせたクロスからのシュート。敵ながらお見事なゴールを間近で見られてよかったよ……と、半ば開き直って語るしかない失点。よく3点で済んだな、という気もする。時久は2点は防いでくれたんじゃないかな？

週明けに録画を見てみると、現地ではミス続出のように思えた攻撃もあと少し、ほんの少しという決定機になりそうな場面も作れていた。まあ、「決定機」ではなく、「決定機になりそうな……」ところまでというのが問題ではあるんだけど、東京Vと同じようにワイドへの展開にもチャレンジするんだけど、決定的な違いはトップへの縦パス。最前線の選手への、いわゆる「くさびのパス」が圧倒的に少ない。というか皆無？狙ってるのかもしれないが、その精度やスピードが全く別次元のように思えた。縦も横も狙い通りに使われて1対1の場面で抜かれてたら、そりゃあ、こうなるよなあ……。もう、忘れるしかない。

それにしても、東京Vはほぼ毎年出足が鈍くてしばらく低迷が続くんだけど、ウチとの試合になると判で押したように俄然調子を取り戻し、やり放題にやって成績を上げていくようなイメージが植えつけられている（苦笑）昨季、ようやく1勝したとはいえ、なかなか借りを返せるようにはなっていないのが歯がゆい。

どうして、他のクラブは勝てるんだらう？どんな違いがあるのかチェックしてみたいような気がしないでもない。でも、そんなことをするより、東京Vから高原と飯尾を借りられれば問題はいっきに解決するんじゃないかな？どうだろう？

まあ、冗談はともかく、京都戦はデズが有休。秀人がCBに戻るのか、俊が関田と組むのか。新をSBに戻すのか？おいちゃんを入れるのか、はたまた、前節同様に司を使うのか？そして、トップに平の復帰はあるのか？当日のメンバー発表が怖くもあり楽しみでもある京都戦。もちろん、勝利のみを信じて長良川へ向かう所存。ただ、天気だけが残念な感じかな。でも、逆に水が溜まって思うようにコントロールできないような状況こそがチャンスかもしれない。ホームであることの利を生かし、少なくとも闘争心では劣ることのない試合を。選手だけでなくボクらも……。アレ？そういえば「雨中の京都戦」って……。 (ぐん、)

前回、「ニスタには良い思い出がない」と書いたが、味スタには更に良い思い出がない。確かに飛田給駅から近いのは便利だし観客席に屋根は付いてるけど、(観客が少ないからとかって噂だけ)普通なら2時間前の開門が1時間半前からだし再入場はできないし。スタジアムグルメは(火が使えないから)旨くないし専用スタジアムじゃないのでピッチが遠くて見にくいし。5万人収容なのに3千人しか入ってないからガラガラで無観客試合みたいだし春先だったのに小雨が降って肌寒い天候だし。そして何より、このスタジアムでは勝利どころか勝ち点1すらも獲ったこ

とがないんだから、良い思い出なんかあるはずもない(苦笑)。昨年、9戦してやっと1勝を挙げた東京Vが相手なので、これからは連勝を...といきたかったが、残念ながらそう現実には甘くなかった。

チーム戦術などによって、「相性が悪い相手」というのは存在してしまうものだけれど、ヴェルディ相手だと(前回の勝利した試合を除いて)「個々の技量の違い」を見せつけられる試合になってしまうことが多い気がする。1点目の高原のシュートも、もうボールが彼の元に跳ね返ってきた時には「シュート撃つよ」って雰囲気をつぶして、ウチの選手たちもブロックに行くんだけど、それでも強引にシュートを撃って得点してしまうんだから、相手を誉めるしかないようなゴールだった。2点目は常盤の技ありのループだったし、3点目は右サイドを飯尾の完全に崩され、しかもプレゼントパスまで出されたのを西に決められてしまった。「あと一歩」の寄せや「あと少し」の精度が足りないという意味では、攻撃面も同じ。全体的にはヴェルディ優位な試合だったと思うが、全くのノーチャンスという訳でも(特に後半は)なかった。でもそこで決めきれないのは、ほんの僅かでもあり、大きくもある差なのだろうということ、感じさせられた試合だった。

しかし逆に言えば、その差を埋めることができれば、得点できるし勝利だって掴み取れる。その差を埋めるのは、選手たちの(勝ちたい気持ちや勇気といった)意識的なものが多いから、本当にサッカーは(実は)メンタルなスポーツなんだと思う。とすれば、選手に声援を送る僕らサポーターの出番も(僅かながら)あるって事で。その気持ちで今後の試合も、選手と共に戦いたいと思う。

(ささたく)

『G5』に参加して来ました

東京V戦前日。原宿のg o l .本店で開催されたG5に参加してきました。

ユニフォーム・サプライヤーであるg o l .さんを始め、クラブや後援会、ファン・サポーターなどいろんな立場からの意見交換会でしたが、U s tでの配信もされるなど、なかなか斬新的な試み(配信自体は今や普通のことだとは思いますが)。情弱というか時代遅れな自分はU s tの配信を見たことがないので、実際自分自身や自分の発言がどのようになっているのか想像もつきませんでした。15名程度という人数の割には多種多様な意見を聞くことができたんじゃないかと思えます。逆に、これくらいの人数だったからこそ、ざっくばらんに意見の交換ができたといえるのかもしれない。

会の終了後に行われた懇親会でも話が弾み、思い切って参加してよかったなというのが正直な気持ちです。いろんなアイデアもイベント案も出されましたので、実現されるか楽しみです。あと、噂に聞く「チョリパン」をいただきましたが、コレはぜひとも屋台村で販売してもらいたい一品！前向きなご検討をお願いします。(ぐん、)

